

洗足学園音楽大学大学院

大学院ピアノコンチェルト研究演奏会②



ピアノ
LI ZHENGHAO
(大学院1年)

ピアノ
野田 めい
(大学院1年)



ピアノ
松本 せいら
(大学院1年)



ピアノ
山本 梨奈
(大学院1年)



電子オルガン
赤塚 博美 (本学教授)



指揮
上野 正博 (本学教員)

2023年3月8日 [水]
開演 18:00 開場17:30
洗足学園 前田ホール

W.A.モーツァルト /
ピアノ協奏曲 第12番 イ長調 KV.414 より 第1楽章

W.A.モーツァルト /
ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 KV.488 より 第1楽章

F.ショパン /
ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 Op.11 より 第1楽章

L.v.ベートーヴェン /
ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 Op.19

▲新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでの飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

== PROGRAM ==

うえの まさひろ
指揮 上野 正博 (洗足学園音楽大学教員)

あかつか ひろみ
電子オルガン 赤塚 博美 (本学教授)

いなば あやね (学部 3年) くぼやま はな (学部 3年) むかだ まみ (学部 3年)
うつみ ななみ (学部 4年) オウ コウ ヒ WANG HONGFEI (大学院 1年)
リ セ イ チ LI QINGZHI (大学院 1年) ソン ユ ベ ン グ SUN YUPENG (大学院 2年)

打楽器

おおにし ゆうと
大西 悠斗 (大学院 2年)

リ セ イ コウ
LI ZHENGHAO (大学院 1年)

W.A.モーツァルト / ピアノ協奏曲 第12番 イ長調 KV.414 より 第1楽章

Wolfgang Amadeus Mozart(1756-1791)// Konzert für Klavier und Orchester Nr.12 A -dur KV.414

I. Allegro

の だ
野田 めい (大学院 1年)

W.A.モーツァルト / ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 KV.488 より 第1楽章

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791) // Konzert für Klavier und Orchester Nr.23 A -dur KV.488

I. Allegro

まつもと
松本 せいら (大学院 1年)

F.ショパン / ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 Op.11 より 第1楽章

Chopin, Frederic(1810-1849)//Concerto pour piano et orchestre no.1 e-moll Op.11

I. Allegro maestoso

～ 休憩 ～

やまもと り な
山本 梨奈 (大学院 1年)

L.v.ベートーヴェン / ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 Op.19

Ludwig van Beethoven(1770-1827)//Konzert für Klavier und Orchester Nr.2 B-Dur Op.19

I. Allegro con brio

II. Adagio

III. Rondo, Molto allegro

~ Program Note ~

■W.A.モーツァルト / ピアノ協奏曲 第12番 イ長調 KV.414

モーツァルトのKV.414は、1782年に作曲されました。モーツァルトがウィーンに移り住んで、立て続けに作曲した三曲の協奏曲の最初の曲で、第1楽章は、"Allegro"の陽気で軽快なテンポで演奏されます。この楽章は、モーツァルトの作品の中でも最も有名であり、彼の才能を象徴するような美しいメロディーが特徴です。

この楽章の冒頭には、明るく軽快な主題が現れ、その後、ピアノとオーケストラが対話的に展開する中間部分があります。最後に、主題が再び現れ、協奏曲の最初の楽章を締めくくります。KV.414の第1楽章は、ピアノ協奏曲の中でも最も人気が高い曲の一つであり、しばしば演奏会や録音で取り上げられます。その明るく軽快な雰囲気は、聴衆を楽しませ、魅了します。

LI ZHENGHAO (大学院1年)

■W.A.モーツァルト / ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 KV.488

ウィーンで絶大な人気を誇っていた1786年、30歳を迎えたモーツァルトは3月にこの曲を書き上げた。この時期モーツァルトは積極的にピアノ協奏曲を作曲しており1784年から1786年で12曲のピアノ協奏曲を作曲し、第23番は第22番、第24番とともにモーツァルトの四句節の演奏会のために作曲されたと言われている。作曲時期が《フィガロの結婚》と重なっており、どちらの曲も絶頂期の作曲者特有の筆の勢いと華やかさを感じることができる。

木管楽器を中心とした楽器編成で、オーボエではなく当時の新興楽器であったクラリネットを前作に引き続き使用している。トランペットとティンパニーを使用しなかったことから、どちらかと言えば室内乐的な親密さを持ち合わせている。

第1楽章はオーケストラの美しく華やかな主題から始まり、そのフレーズにピアノが応答していく。曲の所々にピアノとオーケストラの掛け合いがあり、曲の一体感をより感じることができる。第2主題では第1主題の華やかな旋律とは変わり、明朗で澄んだ響きをもちあわしている。速いパッセージの音階がキラキラと光っており曲全体を装飾している。終結部にはモーツァルト自身が作曲したカデンツァが書き記されている。

野田 めい (大学院1年)

■F.ショパン / ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 Op.11

この曲は1830年、ショパンが20歳の頃作曲された。彼がホ短調のピアノ協奏曲(第2番)をワルシャワにおいて1830年3月17日初演をしたとき、既にピアノとオーケストラのための新しい作品に着手し、第2の協奏曲(第1番)の作曲を進め、完成させた。前作より技巧的で楽曲の規模も広がっている。堂々としたオーケストラではじまり、やがてオーケストラが提示していた第1主題に装飾を加えてピアノが登場してくる。続いて第2主題はピアノが美しく歌い、それをオーケストラが暖かくきわだたせるかのように、控えめに流れる。全曲の長さの半分ほど使うこの第1楽章は、旋律の美しさや華麗なピアノリズムの魅力的なパッセージが特徴的な作品である。

松本 せいら (大学院1年)

■L.v.ベートーヴェン / ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 Op.19

1786年頃、16歳でこの作品に着手した。現在、作品15が第1番となっているが、協奏曲としては最も初めに書かれたと考えられている。1795年に作曲家自身の手によって、ウィーンにおいて初演された。その後何度も改訂され、1798年には我々の手に残されている最終の形がとられていたことは明らかである。主題や旋律、リズムなどには、モーツァルトの伝統を見出すことができるが、形式や構成についてはベートーヴェンの独自性が表れている。

楽器編成が小さく、トランペット、クラリネット、ティンパニーを含んでいないため、全体的に優美な雰囲気である。

第1楽章 Allegro con brio

ソナタ形式。歯切れの良い第1主題と、優雅な気分を持つ第2主題が出てくる。作曲者自身のカデンツァも含め、479小節を持つ大規模な楽章である。

第2楽章 Adagio

ため息の音形が重要な要素となっている。瞑想的な格調を感じさせるアダージョ楽章で、ピアノの装飾的な美しい旋律が魅力的である。

第3楽章 Rondo, Molto allegro

6/8拍子のロンド形式。裏拍にsfがつけられており、リズムカルな主題が特徴的である。全体を生々としたリズムによって駆け抜けていく。

山本 梨奈 (大学院 1年)

Profile

うえの まさひろ

上野 正博 指揮

(東京藝術大学大学院、洗足学園音楽大学大学院及びフェリス女学院大学
講師)



神奈川県生まれ。

東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。同大学院音楽研究科指揮専攻修了。

‘94年、東京国際音楽コンクール・指揮部門にて「入選」。‘96年、ベルリン芸術大学に留学。その後、「ベルリン・ドイツ・オペラ」の指揮研究員として研鑽を重ねる。‘98年、ミトロプーロス国際指揮者コンクールに最高位(1位なし2位)入賞を果たし、併せて「ミトロプーロス・ゴールドメダル」を授与される。

今までに、東京都響、読売日響、東京フィル、東京響、東京シティ、新日本フィル、神奈川フィル、群馬響、名古屋フィル、京都市響、広島響、札幌響、九州響、関西フィル等を指揮し、好評を得てきた。また、ドイツの名匠G.アル

ブレヒトに直接指名される等、オペラスタッフとしても経験を積み、自らも、多くのオペラを指揮している。

海外では、2000年に国立ワルシャワ・フィル定期公演、ウィーン室内管のオーストリア・ツアーを指揮してヨーロッパ・デビュー。地元紙にも「的確な棒さばき」と評価された。‘06年には、ラボラトリウム国際現代音楽祭(ワルシャワ)に招聘された。

昨年2月には、テレビ朝日「関ジャム完全燃SHOW」に出演。活動の幅を広げている。

現在、東京藝術大学大学院、洗足学園音楽大学大学院及びフェリス女学院大学講師。

あかつか ひろみ

赤塚 博美 電子オルガン

(洗足学園音楽大学・大学院電子オルガンコース統括教授)

学生時代よりエレクトーンコンクール国際大会などで、数々の音楽賞を受賞。オペラ伴奏者としての活動を始めてからは、ミラノスカラ座のG・ピサーニ氏に学び数々のコンサートで共演。ソリスト、現代曲の初演、オペラ伴奏などでエレクトーン演奏の第一人者として国内外を問わず活躍中。国際的フルート奏者の工藤重典氏と共演し、電子オルガンの可能性を引き出す演奏に絶賛され、繊細な音楽のニュアンスまでも表現できる数少ないエレクトーン演奏家として、多方面で活躍を期待されている。

編曲、演奏を担当したCD“Message for You”を水野佐知香氏、神谷百子氏と共にリリース、好評を博す。

現在、洗足学園音楽大学・大学院電子オルガンコース統括教授。





リ セ イ コ ウ
LI ZHENGHAO (大学院1年) ピアノ

12歳からピアノを習い始め、2022年度に洗足学園音楽大学大学院に入学。
現在、斎藤龍氏に師事。



の だ
野田 めい (大学院1年) ピアノ

静岡県出身。4歳からピアノをカワイ音楽教室にて学ぶ。
2020年に洗足学園音楽大学の室内楽準セレクションチームに選抜された。
2022年に洗足学園音楽大学音楽学部ピアノコースを卒業。同大学院在学中。
現在ピアノを和田さやか氏に師事。室内楽を古川原裕二、星野均、渡部亨の各氏に師事。



まつもと
松本 せいら (大学院1年) ピアノ

北海道出身。5歳よりピアノを始める。第10回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会入選。第20回、21回大阪国際音楽コンクールピアノ部門 Age-U ファイナル入選。第22回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 全国大会入選。
2021年度ソナタコンクールマスタークラス受講。大学在学中、2019～2021年度ピアノコース特別選抜演奏者認定。
これまでにピアノを太田代路子氏、室内楽を安永徹、市野あゆみの各氏に師事。現在ピアノを吉武雅子氏に師事。



やまもと りな
山本 梨奈 (大学院1年) ピアノ

東京都出身。洗足学園音楽大学音楽学部ピアノコース卒業。
現在同大学院1年に在籍し、ピアノを鳥羽瀬宗一郎氏に師事。

2022 大学院ピアノコンチェルト研究演奏会

■授業等責任者：江崎 昌子^{えざき まさこ}

■電子オルガン助手：歐 佳欣^{オウ ジャン} 松下 紗弓^{まつした さゆみ}

■ステージ・マネージャー：野澤 朋子^{のざわ ともこ} 影山 舞^{かげやま まい}

■音響：能藤 伸^{の と しん} (ミュージッククラフト)

■AC (アカデミック・コーディネータ)：牛頭 真也^{ごず しんや}